

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392700013		
法人名	有限会社 ベルヴィ		
事業所名	やすらぎホーム鴨方(ユニット共通)		
所在地	岡山県浅口市鴨方町深田439-1		
自己評価作成日	平成25年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3392700013-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成25年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 各ユニットの出入り口の鍵を開放し、利用者様が自由に入出りできる 行事などの際、系列の近くの施設の利用者様と交流を図る 3か月に1度ホーム便りを発刊し、外部・家族様・地域へ情報提供する

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の外部評価で「新生やすらぎホーム鴨方」への確実な足取りを見せてもらったが、今回は更に一歩も二歩も前進した状況を知ることができた。何より利用者・職員の明るさが良い。弾けるような笑顔が良い。好奇心一杯・素早い反応・お話し好きが良い。このような状態は、たまたまである筈が無い。法人の支えの中で職員が理念に向けて弛みない努力を続けているからだろう。両管理者の間味溢れる笑顔と言葉からも多くの事が伝わってきた。利用者とは勿論の事、家族や地域の方々とのお付き合いの有り方も、ほのぼのとしたものを感じる。また、昨年3月にオープンしたばかりの「ケアビレッジやすらぎ」(小規模多機能併設サービス付き高齢者向け住宅)は、「すぐ近く」と言う事もあって、このホームに多くのメリットを与えてくれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所・ユニット内に経営理念・運営方針が常に意識を持ち行動している	法人の理念を常に念頭に置きながら、各ユニットの管理者は「それを実現させるために日頃から何に視点を置くのが良いか」よく考え、具体化して実践につなげている。その表れの一例が「風船パレーの時の白熱ぶり」や「止まらないお喋り」だろう。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事などの際は近隣の方々に声をかけ交流を図ったり地域ボランティアの方にもホームに来てもらい演芸や歌などを披露している	地域との交流は年々目に見えて幅が広がり、公民館での作品展示・地域での溝掃除参加・祭等の行事交流・子供達の職場体験等や、近所の人との差し入れ・気持の良い挨拶や犬の散歩途中でのおしゃべり等々、書ききれない状況になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3か月に1度、事業所の新聞を発刊し利用者の様子、支援の内容等を外部に発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、市の高齢支援課・民生委員・家族様を交え課題を見つけ、次の会議までに何らかの解決策を見出す	前年の目標達成計画に「この会議には有意義な意見や提案が出されているので、家族にも報告し、広く意見を聞いて有効に活用しよう」という内容を挙げ取り組んだ結果、非常に効果的な実践が見られた。報告を読んだ家族からも色々な反応があった。	運営推進会議はホームの運営やサービス向上に非常に影響の大きな会議と思うので、長期的視野からも見て考察できる工夫をしていきたい。また、会議への参加者や内容の取り上げ方等、検討を重ねたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で地域の情報を提供して頂いたり、研修会などに参加し情報交換を行っている	浅口市は以前より高齢者・認知症対策に熱心で、研修会など積極的に実施している。運営推進会議でも適切なアドバイスや指導・情報提供が見られるし、日常的には事業所の実態をよく理解してくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に出入口の施錠解放を行う 危険が伴う際はスタッフが付き添う様にしている	ホームの委員会組織の一つに、この身体拘束廃止委員会があり、色々なケースを検討したり、現状の問題点を提議して話し合っている。職員の無意識の内にあるかも知れない「言葉による拘束」まで言及している。	法律で定められた禁止の対象となる具体的な行為をやむなく行う場合は、条件となる三原則に基づいた書式による記録をしなければならない。委員会で予め検討しておいた方が良いと思う。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体虐待・言葉の虐待を行わない様にスタッフそれぞれが注意し、接遇マナーに心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2階に成年後見人制度を利用されている方がおられ、職員も研修に参加し意識を高めてきている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類を参照し、重度化や看取りの対応など詳しく説明し同意を得ています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・物品購入・病院受診など電話連絡をとり、家族の意向・要望等を聞いています	運営推進会議では家族代表が「玄関その他の施設開放」について意見を言ったり、家族が多数参加する行事の時に家族会を計画しようとしている等、家族からの意見や要望に出来る限り耳を傾けようとしている。	この利用者は全体的に明るく心を開いている人が多いような気がする。こちらからの声掛けにもよく反応しているので、今の内にしっかり本人の意見や本音を上手に聞き、メモし、ケアや運営につないで欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月代表者と管理者の会議を行います 管理者と職員の会議も行い意見交換を行います	管理者は利用者への心遣いは言うまでもないが、職員が心身共に健康であることやお互い何でも言い合える人間関係をとても大切な事と考え、様々な配慮をしている。こう言った姿勢は必ずホームの運営を左右するだろうし、利用者にも大きく関わってくると思う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれがやりがい等を見つけ、常に向上心を持って働ける様に努力し、成果を評価しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々のレベルアップを図るため、研修参加の機会を設けています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会・勉強会を中心に参加 同業者との交流を図っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接にて、家族と本人様から生活状況を聞き、利用者様の要望や不安を理解する様に努めます		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にて家族様の不安・要望を聞き取り、対応出来るよう努めていきます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望に対応し、必要に応じて他のサービスの利用の調整を行っています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事、出来ない事を見極め掃除・洗濯たみ等を手伝って頂いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会には居室でお話しが出来る様に対応し、家族様へ日頃の様子等をお伝えし、共に支えていく関係を保っています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間に関係なく、いつでも面会して頂いています 本人様の大切にされている物を持参して頂き関係を保っています	「どこか行ってみたい所ある？」等の話から、〇〇さんの家の近くのドライブが突如実現したり、買物や病院の待合所で知り合いのお喋りが始まる。市民文化祭に作品を出展しての出会いも楽しい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが仲介役となり、利用者同士関わりやすい雰囲気を作り支えあえるように支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	多施設へ移られた場合、面会へ行かせて頂いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々職員から声かけを行い、希望や意向を聞いています 意思疎通困難な利用者様には家族様より情報を得ています	目標達成計画の優先順位の一歩に「本人の思い(発言やいつもと違った行動等)に職員が注視し、詳細に記録して共有・評価し合おう」を取り上げて取り組み、良い結果が得られている。業務として定着するまで粘り強く継続したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に生活歴・趣味・嗜好を教えて頂き、ミーティング等で職員に伝えています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活リズムの把握・行動・心身状態を把握し、小さな変化等もキャッチする また体操やゲームで持っている能力を把握しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がケアマネと一緒にプランを作成 家族の思いをプランに掲げスタッフ会議で話し合い計画を上げています	現在、利用者本人の発言(ここでの暮らし方の希望等)を真摯な姿勢で聞き取ろうと職員が努力しているので、現在のプラン作成の過程にうまく組み込まれると、さらに分かり易く効果的なケアサービスが実践出来るだろう。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々ファイルを準備し、健康チェックを行っています 日々の生活の様子・状態変化を記入し、プランの見直しに活用しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の状況に応じて通院や送迎を行います 必要な支援は柔軟に対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で支援に関する情報・地域の情報を聞き、活用させて頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人・家族が希望するかかりつけ医となっているが病院が遠方にある等止むを得ない場合は家族と相談の上、病院を決めさせて頂いている	現在、ホームが抱えている問題点の一つが、「利用者の重度化により職員の受診付き添いが増加している。その為の対策を検討中」と言う事である。今後、家族や医療関係者ともよく話し合い、より良い支援に努めたい。	ホームに入居したとしても家族も利用者支援の一部の役割を担うことは良い事と思うので、「受診付添いは原則として家族」と言う方針を検討したり、協力医往診を定期的にお願する等、出来る限り速やかに実現したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化を見逃さない様にし、早期発見に努めています 健康状態に変化があれば看護師に連絡し、指示を仰ぎ受診や処置をしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人様の情報を医療機関に提供しています また定期的に面会し退院支援に結び付けています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針を家族に説明し、確認を頂いています 医師の協力を得、家族様の意向をお聞きしチームで取り組んでいます	今までの利用者は、病気のため入院・退居、その他の事情で、ここで最期まで看取ることが出来た人は少ないが、今後色々な条件や環境を整えばチームで重度化や終末期ケアに取り組むつもりである。運営推進会議や「やまぼうし通信」等でも時々取り上げて、日頃から考えるチャンスを作っておきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様のかかりつけ医、家族様の連絡先を記入した一覧表を作り、緊急時に備えます		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(5月・11月)避難訓練を行っています	法人の体制に従った災害対策をしており、避難訓練には利用者も参加している。運営推進会議でも広範囲の災害対策について話し合っている。直ぐ近くに法人内施設が出来、お互いに何かある時は協力し合えるようになった事も有り難い。	災害の少ない地域であることやスプリンクラー等必要な設備は完備しているが、万全を期して、折角設置している外階段での訓練も経験しておいた方が良いのではないかと。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、接遇マナーを心掛け、利用者様本位のサービス提供に努めています	職員は一人ひとりの利用者にしっかり寄り添うよう良く気を遣っており、呼び掛けや声掛けについても本人の気持を大切にしている。また、その人の特長や人となりをよく把握し紹介する等、個々が尊重されている様子が感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様にあわせて声掛けを行う 表情等を読みとりながら、本人の行動で決定するよう努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースに合わせて行動 意思確認をし希望に添えるよう支援していきます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様に洋服を出して頂いています 意思決定の困難な利用者様には季節応じた服を選んで頂いています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が自ら進んで楽しく食べて頂ける様に支援します 下膳等も手伝って頂いています	食事は原則としてフードケアサービスを利用しているが、味噌汁や一寸したお総菜はホームで作っている。職員も一緒に食べながら好き嫌いや希望を聞いて、個別対応にも役立てるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、水分量・食事量を記録し、食事量が少ない場合は補給をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを行っています 利用者様の状況に合わせて洗面所にて口腔ケアを行う様にしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を記入し、トイレでの排泄を促しています	排泄の自立支援については特に重視し、職員間で小さな事でも話し合い、情報を伝達し合っている様子が記録からもよく見られる。特にパットの見直しにも気を配り、少しでも効果的に使用できるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェック表にて記録を残し、十分な水分補給を行って便秘解消に努めています 受診時Drと相談の上、緩下剤を内服されている方もいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の体調・希望を確認して入浴しています	入浴に関しては現在あまり大きな問題はなく、快適な入浴を楽しんでもらっている。「気持ち良くて出たくない人」も居るとの事だ。トイレと浴室がつながった構造も、失禁時や入浴への誘導に便利だろう。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、生活リズムを整えています 眠剤を服用されている利用者様には状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないかを確認します		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに効能書きを閉じて整理 服薬時には確実な服薬をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌ったり、塗り絵をするなど利用者様に合った支援を行います		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へのドライブ・買い物等を一緒に行きます	行事としての外出の他に、その日のお天気や気分が気軽にドライブや散歩・ショッピングをしている。桃畑を指差して「花が咲いたら見に行くんよ」と教えてくれる人も居た。誕生日にはその人の希望通りに職員とマンツーマンで出掛ける人も居る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の状況に応じ、現在お金を所持されている方はいませんが、買い物等でのお支払いの手伝いをしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に電話をして頂いたりお手紙を出される方にはスタッフが出来ない部分のお手伝いを致します		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール前のベランダで採光が入る様になっています 施設周辺には田畑があり季節に応じて田植えや稲刈りの様子を見る事が出来ます	利用者は自分の居場所で安心して寛いでいる様子がよく伺われた。職員がそれぞれの人が自分の家で過ごしているような気持ちになって貰える配慮をしているからだろう。ホーム内だけでなく、ベランダや広い敷地等も活動の幅を広げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所よりリビングの様子が1度に見渡せ、利用者様は思い思いの場所で過ごされています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス・ベッドは備え付けですが、その他の持ち物は本人様が使われていた持ち物で配置されています	居室に居てその季節には桃の花見ができる所は少ないだろう。内部も写真やお気に入りの縫いぐるみ・自分が描いた絵や作品・飾り物等々で各居室の雰囲気や和ませている。入居前の生活に馴染みのある物と共に暮らしている人も居る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで危険のない環境整備を行い、安全・安心な生活を送って頂いています		